

SSK

視覚 障害

昭和五五年二月一五日SSK通刊第七七一号(毎月六回、5の日、0の日発行)
昭和四六年六月一七日 第三種郵便物認可



その研究と情報

1981年1月 No.51

ISSN 0385-7476

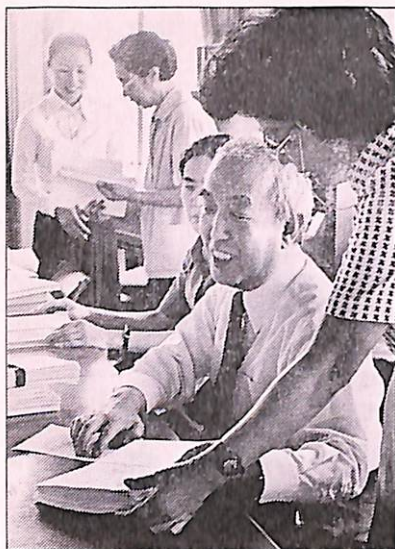
本間一夫著

〔岩波新書〕定価三八〇円

指と耳で読む

日本点字図書館と私

五歳の冬の日、病いのために突然失明した著者は、点訳された図書によって読書の歓びを知った。だが点字の本はあまりにも少ない。そこから点字図書館の構想が生まれ、昭和十五年、東京の自宅に開設された。以来四十年、指と耳を通しての読書は盲人の知的渴望を満たしつつある。本書はその苦闘のあとを語り、人びとの理解と協力を訴える。



点訳奉仕者と語り合う著者(昭和52年)

岩波新書から

リハビリテーション

砂原茂一著

リハビリテーションを、単に身体機能の回復訓練としてだけではなく、広く障害者の人権を保障する思想と技術の体系としてとらえなおす。

定価三八〇円

目の見えぬ子ら

赤座憲久著

点字の作文をそだてる――点字教育を、自己の生活をみつめ、心情を豊かにし考えを深めていくためのものとした、現場の一教師の実践記録。

定価三八〇円

村で病氣とたたかう

若月俊一著

若い著者が、戦前の学生運動の挫折の後、初心を忘れず農村に入り、今日七八〇のベッドをもつ民主的な病院を築くまでの記録である。

定価三八〇円

ある盲学校教師の三十年

鈴木栄助著

盲学校の教師や生徒の生活と学習の苦労を語るとともに、三十余年におよぶ現場体験を経た貴重な教育実践上の工夫とその努力を語る。

定価三八〇円

岩波書店



東京・千代田・一ツ橋
振替〈東京〉6-262407101
小社の出版物は全て定価販売です

Full Participation and Equality



高橋しのぶちゃん（前列右から2人目）と4年1組のクラスメイト

統合教育・和光小学校（世田谷）

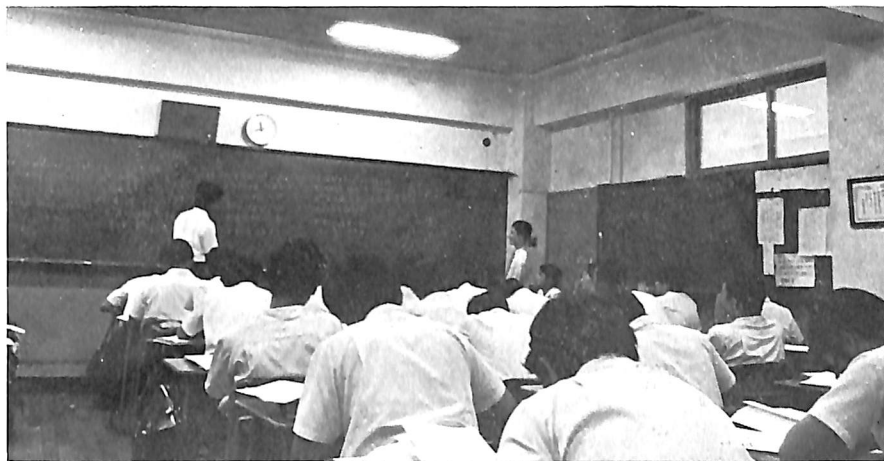


理科：食塩の実験



国語：読んでいるのがしのぶちゃん

普通校での教育実習・立教中学校



中学3年生の教育実習をする高村君（立教大4年生）

板書はせずに、代りにプリントを使用したりして、授業方法に工夫はした。最後に書いてもらった生徒全員の感想文は、感動的なものであって、このままこの学校で教えて下さいというのがたくさんあった。生徒は完全に受入れてくれた。



数学担当の広瀬先生が親身の指導をして下さった。

視覚と触覚の接点を求めて

陶芸家の西村陽平氏は、千葉盲学校の生徒を通して視覚の美と触覚の美の接点を見出すべく、釉薬を使わない作品の制作を試みた。

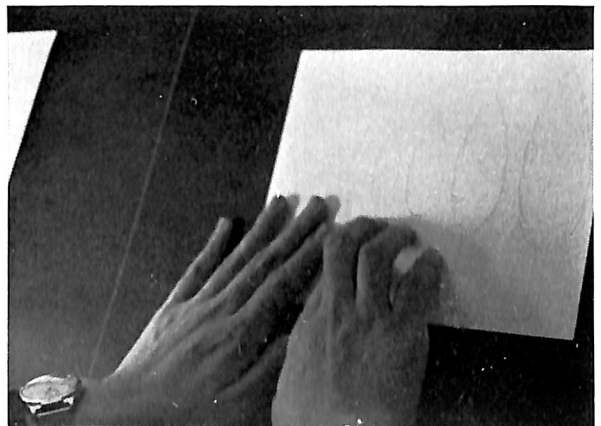
その作品を、県立美術館での陶芸展で発表し、一つの方角付けを行った。

芸大出身のイラストレーター、田中喜代司氏は、今まで自分の仕事で欠落させてきた盲人との共有きでる部分を求めて、手探りに点画に取組んでいる。

＜全員参加＞と言い、＜完全平等＞と言うのは、障害者、健常者、両サイドからの歩み寄り、共有部分の拡大を求める自然な気持が根底にあってのことなのである。



盲児達の陶芸展（千葉県立美術館にて）



田中氏の点画（個展、YMCAにて）

目 次

1981年 1月 No.51

2 ページ評論	太宰 博邦	2
---------	-------	---

特集 完全参加と平等

盲学校の役割	栄井 彰	5
統合教育への一つの展望	高橋 秀治	7
高等教育の将来	塩谷 治	9
視覚障害者のリハビリテーション	関 宏之	11
視覚障害者と情報について	岩崎 英正	14
視覚障害者のレクリエーション	増田 良一	16
地域活動への参加	橋本 敏弘	18
職域開拓	辻内 弘	20
雇用運動の課題	中村紀久雄	23
盲人職業としての鍼灸	長尾 栄一	25
年金等経済生活	吉本 充賜	27
視力障害者の結婚と家庭生活	鈴木 彪平	30
補助具	花島 弘	32
盲老人福祉の明日	本間 昭雄	35
視覚障害児の早期教育	五十嵐信敬	37
記者の目からみた国際障害者年前年	竹内 恒之	39

この人 発想のユニークさ——国際障害者年担当の丸山一郎さん	42
-------------------------------	----

80年代の視覚障害児教育(1)

視覚障害児教育における現代的課題と取り組むために	木塚 泰弘	45
インフォメーション・コーナー		52
編集後記		58

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編 集 後 記

いよいよ国際障害者年です。私たち障害者が、何の違和感もなく、完全に融けこめる社会の構築に向って、一人一人が努力しなければならない時です。本誌もこの趣旨にそって、視覚障害者への理解をより深めてもらうような編集をしたいと考えております。

さて、すでに表紙や奥付でお気づきになったかと思いますが、本号から身体障害者定期刊行物協会に加入し、同協会の刊行物として登録することにより、第3種郵便物の認可を受けることにしました。ご承知のように、昨年10月からの書籍小包料の値上げ、さらに近く実施される一般郵便料の値上げによって、本誌のように郵送に頼っている刊行物は、たいへん大きな打撃を受けます。郵送料の経費負担をできるだけ軽減して、購読料の値上げを少しでも先にのばせるように考えたからです。したがって、発行人が身体障害者定期刊行物協会になりましたが、編集責任はあくまで日本盲人福祉研究会ですので、本誌に関するいっさいのお問い合わせは日本盲人福祉研究会へお寄せ下さい。くれぐれもお間違いないようお願い致します。

(日本盲人福祉研究会 出版委員長 田中徹二)

視 覚 障 害 1981年 1 月 No.51
年間購読料 2,500円 (送料とも)
発行日 1981年 1 月 1 日
編集人 (連絡先)

日本盲人福祉研究会

〒160 東京都新宿区高田馬場 1 丁目
日本点字図書館内 23番 4 号

電話 (03) 200-1130

振替口座 東 京 6-16103

発行人 身体障害者団体定期刊行物協会

〒157 東京都世田谷区砧 8-21-3

印刷所 合同印刷株式会社

〒130 東京都墨田区業平 2-9-13
電話 (624) 6111 (代表)

協賛団体 日本点字図書館